



# 営農NEWS



## コマツナ栽培における病害虫の防除対策

茨城県のコマツナ栽培は、ハウスやトンネルまたは露地栽培で、播種と収穫を複数回繰り返す栽培体系が中心です。コマツナを長期連作すると、土壌病害の苗立枯病や萎黄病などが発生しやすくなります。また、各種の茎葉病害や食葉性害虫が時期により発生し、さらに、アブラムシ類が媒介するモザイク病も発生して、これらにより減収します。コマツナ栽培では作型や圃場条件などによって、病害虫の被害発生が大きく異なります。このため、個々の圃場での作型ごとに被害の発生状況をよく整理し、それに応じた防除体系を組み立てることがたいへん重要になります。作期や作型ごとに、適期で的確な防除体系を組み立て、高品質で安定したコマツナの生産を進めてください。

### <病害虫発生の特徴>

冬季の病害虫発生は少ないですが、早春または晩秋の低温多湿のときに白さび病やべと病が、梅雨期や秋の長雨期には炭疽病、黒斑細菌病、白斑病などの茎葉病害が発生しやすくなります。また、土壌病害として、春～秋には苗立枯が、夏季には萎黄病などの発生がみられます。モザイク病が多発することはまれですが、アブラムシ類がウイルスを伝染するため、その対策が重要になります。害虫では、キスジノミハムシやアザミウマ類が夏季を中心に長期に被害が発生し、アブラムシ類やハモグリバエ類は春と秋に発生しやすい傾向です。チョウ目害虫のアオムシ、コナガ、ヨトウムシ類も春と秋を中心に発生しますが、ハイマダラノメイガは夏季～初秋に被害が集中します。これら害虫の防除が手遅れになると、大きな減収を招きます。

### <防除対策のポイント>

コマツナは登録薬剤が少ないため、薬剤防除のみに頼らない総合防除が必要です。多湿条件が病害の発生を助長するため、圃場排水の不良改善や高畦栽培を行い、過度の灌水を避けて適度な湿度条件に保つようハウスやトンネル換気等の適正管理に努めてください。被害株は早めに除去し、発生場所を中心に薬剤防除を行います。なお、連作や土壌病害が発生したハウスでは除塩を兼ねて、夏季の還元型太陽熱土壌消毒などを実施しましょう。害虫やモザイク病の対策には、ハウスやトンネルの開口部に防虫ネットを展張して、害虫の侵入を防ぐことが最も大切です。また、害虫の飛来源、ウイルスの保毒源となる圃場周辺の除草を徹底するなど、圃場衛生に努めます。さらに、登録のある各種の粒剤等を播種前に処理し、被害が発生したら発生株の早期除去や薬剤防除を実施しましょう。

表 1 コマツナ各種病害に対する主な防除薬剤 (令和元年 8 月 28 日現在)

対象病害				薬剤名	使用量または希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
立枯病 (リゾクトニア菌)	白さび病	べと病	黒斑細菌病				
○				フロンサイド粉剤	30kg/10a 全面土壌混和	播種前/1回	29
	○			ユニフォーム粒剤	9kg/10a 全面土壌混和	播種前/1回	4と11
	○			ランマンフロアブル	2,000倍	収穫3日前まで/3回以内	21
	○			アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫7日前まで/2回以内	11
		○	○	Zポルドー	500倍	- / -	M1

注) 分類欄には、FRACコードを記載しました(コードが2つは混合剤)。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

表 2 コマツナ各種害虫に対する主な防除薬剤 (令和元年 8 月 28 日現在)

対象害虫						薬剤名	使用量または希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
アブラムシ類	アオムシ	コナガ	ハモグリバエ類	アザミウマ類	キスジノミハムシ				
					○	フォース粒剤	4kg/10a 全面土壌混和	播種時/1回	3A
○					○	スタークル粒剤	6kg/10a 播溝土壌混和	播種時/1回	4A
○						ジェイエース粒剤	3~6kg/10a 作業散布後土壌混和	播種前/1回	1B
○					○	モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	収穫7日前まで/1回	4A
○						ウララDF	4,000倍	収穫前日まで/2回以内	29
	○	○				コテツフロアブル	2,000倍	収穫3日前まで/1回	13
		○	○		○	アニキ乳剤	1,000~2,000倍	収穫前日まで/3回以内	6
		○				プレオフロアブル	1,000倍	収穫前日まで/2回以内	un
		○			○	アクセルフロアブル	1,000倍	収穫前日まで/3回以内	22B
	○	○		○		ディアナSC	2,500~5,000倍	収穫前日まで/2回以内	5
	○	○	○マメハモグリバエ			カスケード乳剤	2,000倍	収穫7日前まで/2回以内	15
	○	○				エスマルクDF	1,000~2,000倍	収穫前日(発生初期)まで/-	11A

注) 分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。

